

最初の野球規則

(ニッカーボッカー・ベース・ボール・クラブ・ルール 1845年9月23日)

- 第 1 条 メンバーは決められた時間通りに集合すること。
- 第 2 条 メンバーが集合した時、会長(会長が不在の場合は副会長)は審判を指名する。
審判は試合を記録用のノートに記録し、この規則に違反したすべての行為を書き留める。
- 第 3 条 会長(会長が不在の場合は副会長)は 2 人のメンバーをキャプテンに指名する。
二人はその場を離れて相談し、試合に参加する選手を選ぶ。その際、両方の選手の技量ができるだけ同じになるように留意する。キャプテンは率いるチームをコイン・トスで決め、次に同じ方法で先攻を決める。
- 第 4 条 塁と塁との距離は、本塁から二塁まで 42 歩、一塁から三塁までが 42 歩で同距離とする。
- 第 5 条 通常の練習日には、対外試合を行わない。
- 第 6 条 練習開始時間にクラブのメンバーが足りない場合には、メンバー以外の人を選手に加えることができる。メンバーが後から現れても練習に参加させる必要はない。但し、選手を選ぶ際にその場にいれば、いかなる場合でもメンバーに優先権がある。
- 第 7 条 試合開始後にメンバーが現れたときは、両キャプテンがお互いに同意すれば、選手に加えることができる。
- 第 8 条 試合は 21 点で成立する。但し、試合終了時に両チームのアウト数は同じであること。

- 第 9 条 打者に対する投球はピッチで、スローではない。
(注: 投手は下手投げで打者が打ちやすいボールを投げていた)
- 第 10 条 打球がグラウンド外に(注: ノー・バウンドで)出た場合、あるいは一塁または三塁の線外へ出た場合はファウルである。
- 第 11 条 投球を三回空振りして最後の投球が捕らえられたらアウトとなる。捕らえられなければフェアとみなされ、打者は走らなければならない。
- 第 12 条 バットで打ったか、かすったボールが直接またはワンバンドで捕らえられたら打者はアウト。
- 第 13 条 走者は、塁に着く前に塁上の野手が捕球するか、ボールでタッチされればアウト。但し、どんな場合でもボールを走者にぶつけてはならない。
- 第 14 条 守備側がボールを捕えようとするのを妨害する走者はアウト。
- 第 15 条 スリー・アウトで攻守交替。
- 第 16 条 打者は定められた順番で打つこと。
- 第 17 条 試合に関する紛争や異議は、すべて審判が裁定する。抗議は認められない。
- 第 18 条 打球がファウルのときは、得点も進塁もできない。
- 第 19 条 投手がボークを犯したとき、走者はワン・ベース進塁できる。この走者をアウトすることはできない。
- 第 20 条 打球がバウンドしてグラウンド外に出た場合には、ワン・ベースが与えられる。